令和７年度小平市立花小金井南中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

**１　調査目的・対象**

**児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。**

**（１）教科に関する調査**

身に付けておかなかければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

**（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査**

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　課題

全ての項目において、全国平均を上回っていた。「知識・技能」と「思考・判断・表現」の正答率は57.6ポイントと60.7ポイントとバランスがよい。問題形式においては、正答率について選択式・短答式が70ポイントを超えているのに対し、記述式が30.6ポイントに留まった。

思考・判断・表現の正答率と知識・技能は高位で

安定してはいるが、記述式では無回答も多く記述の条件を満たさない解答も30ポイント近くあり、苦手な生徒が多い。初見問題で問いの内容をきちんと把握すること、またその上で自分の考えを記述する意識させ、練習させることが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

授業の中で度々自分の考えを書く記述練習を行っているが、2学期以降、課題の指示内容をきちんと理解して書くことを意識させ、推敲によって課題に沿っているかを確認させながら取組ませる。

　また、各単元ごとに行っている話合い活動を通して他人の意見を聞き、自分の考えを深めて意見文を書く学習を充実させる。さらに、友達の作文や模範となる作文を参考にさせ、作文力・意見発表力を高めていく。

【数学】　　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　　　　　　課題

基礎・基本の問題に対しては高いレベルの技能を持っているが、思考する問題に関してはやや低い結果に留まってしまった。また、その部分とつながってくるが、記述式の問題に苦手意識をもっている傾向がある。

すべての項目で全国平均、東京都平均を上回った。「知識・技能」と「思考・判断・表現」を比べると、13.6ポイントの差がある。また、選択式、短答式の正答率は同程度だが、記述式は12ポイント低い結果となった。

学校で取り組む具体的な改善策

既習事項をもとに新たな定理を見つけ、それを説明するような活動を増やしていく。それにより、思考することへの苦手意識を減らしていく。思考を要する問題への取組みでも、手がかりの与え方を工夫し、考える力をつけていく。

【理科】　　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　　　　　　課題

　仮説を設定し、実験の意味を考えて解釈する活動は多く実施できている。一方、計算や正確な知識など、演習や繰り返しの学習は並程度である。社会とのつながりを感じることができる指導もあまり実施できていない。

　実験操作の理由を考えたり、異なるものの共通点を見出したりする問いについては、全国平均より10ポイント程度高かった。一方、計算や正確な知識の問いでは、全国平均程度であり、社会とのつながりもあまり感じることができていない。

学校で取り組む具体的な改善策

　仮説の設定、実験とその解釈を踏まえた概念形成を引き続き実施しつつ、その中で計算を用いて理解させたり、理科用語を意識したまとめを書かせたりする活動を毎授業行っていく。知識定着のための読み物を教師の範読だけでなく、生徒にも読ませる。指導内容の精選を行い、計算や知識の演習、重要事項の確認や分からないところを質問できる時間など、学習を振り返る時間を授業中に数分、学期に２回程度捻出する。社会とのつながりを感じられる調べ学習を、各単元で１回以上実施する。

【質問紙】　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　課題

「学校に行くのが楽しい」「友達関係に満足している」と答えた生徒がいずれも全国・東京都より多かった。また学習面では授業で課題を解決する頻度が高く、自らの学習に役立っていると実感し、学習した内容を次の学習に生かしている生徒が多いことがうかがえた。生徒同士の話し合い活動も学習効果をあげていると感じる生徒が多かった。

自分が認められていると感じている一方、将来の夢や目標を持っている生徒や自分の良いところがあると考える生徒が少なく、様々な不安を抱えていることがうかがえる。中学生は社会を担う大人に成長する過程であり、多くの他者との関わりの中で力を付けていくが、身の回りの狭い範囲での関わりに終始している感がある。また学習面ではPC・タブレットなどのICT機器の使用について課題を感じていることがうかがえる。

学校で取り組む具体的な改善策

生徒自身が学習にさらに興味や関心をもち、主体的に取り組むことで、学びの目的が明確になり「学ぼうとする力」が獲得されていく。その力をさらに伸ばすためにも、全国学力・学習状況調査で課題となった点を確認・検討し、生徒に働きかけていく。

今回課題で明らかになったのは、自分の良いところを認める自己肯定感の低さである。学校や友人関係には概ね満足しており、円滑な人間関係は築けている。しかし、他者と比べ自己の良いところに気付かずに生活を送っている傾向がうかがえる。学校生活や授業を通して、他者と関わり活動することで、他者と比べるよりも、自己のよさに気付き、意見を交わして学びを深め、協働することで、社会という大きな集団においてもその一員として他者との関係を構築できるような力を育てていく必要がある。

今後も継続して「自分で考える」 「自分の考えを周囲と共有する」 「自分の考えを再構築して理解を深める」活動を通して言語活動を柱とする学習を推進する。具体的には意見交換の場面を増やし、考えを共有し、自らの考えの深化を図り、学習意欲の向上を図る。この言語活動の中に、ICT機器の効果的な活用を取り入れ充実させていく。またチームティーチング、習熟度別や少人数などの指導体制を充実させ、生徒の自主的な活動、自己肯定感の育成を推進する。